

てんじしょうかい
展示紹介

ニホンザル

2階のとやま空間のたびの展示室の「山地」のコーナーにはニホンザルがツキノワグマやニホンカモシカとともに初夏の森の中を親子で歩いています。今回は、ニホンザルを紹介（しょうかい）します。

● ニホンザルの生活（せいかつ）

ニホンザルはサルの仲間では世界中で最も北に分布し、青森県下北半島が北限です。日本では本州、四国、九州の山地に広く見られ、十数頭～百数十頭の群れで、移動しながら葉や芽、実を食べて生活しています。春には1頭の子を産みます。

富山県では神通川より東の山地で生活しています。春は芽吹いた草や軟らかい葉・木の葉や芽を、夏はクズなどの葉を食べます。秋には冬にそなえ、木の実をたくさん食べ脂肪をたくわえます。冬は多くの木が落葉し、草も雪でおおわれエサが少なくなり、ササの葉や木の皮をよくかじります。畑の作物が実る頃にはふもとの集落付近にも出てきて畑を荒らすこともよくあります。



ニホンザルのフン



ニホンザルの足跡

● 足跡やフンを見つけよう（あしあと）

山でサルの群が通ったところに足跡やフンをみつけることがあります。フンは丸く短い形です。手足は人間とよく似た形で、サルの足跡は他のけものちがうのですぐにわかります。

● 骨を調べよう（ほね）

ニホンザルはヒトとよく似た骨格をしています。頭骨をみると、目は顔の前の方につき、歯には切歯、犬歯、小臼歯、大臼歯があります。手足の指の骨は、親指の骨と他の指の骨が向き合い、物をつかむことができます。



頭骨と首の骨

（引き出しをあけてみましょう。頭骨をみて歯の形や数を数えてみましょう。1階のとやま時間のたびの奥にある「地球にはいろいろな仲間がいる」のコーナーには、ヒトの頭骨もありますので形や歯を比較してみましょう。引き出しには他にも手足の骨、サルが食べた植物があります。）

（2008年9月 南部久男）